

第6章 具体的な分野別の取り組み

この推進指針で目指す社会の実現のため、各分野における現状と課題を踏まえて、分野別の推進方向や具体例を示します。具体例は、山形県が主体となって取り組むことはもちろんですが、市町村や事業者等、地域などが積極的に取り組むことで、「みんなにやさしいまちづくり」を促進するものです。

具体的な分野別の取り組みにおいて、次の3点を特に留意し進める必要があります。

① アクセシビリティ

誰もが分け隔てなく利用できる状態にあり、なお、かつ快適に利用できるように配慮されていること

② 使いやすさ

経験や知識、体力などとは無関係に、無理なく安心して利用できるように配慮されていること

③ 持続可能性

人や環境への影響や景観形成などについて、配慮されていること

第1節 ひとつづくり

《現状と課題》

- 平成20年9月に実施した新世紀やまがた課題調査では、「ユニバーサルデザイン」という言葉を「聞いたことがあり、意味も知っている」と回答をした人の割合は15.7%、「聞いたことはあるが、意味は（正確には）知らない」と回答した人の割合は46.1%となっており、ユニバーサルデザインという言葉は、新聞や雑誌、テレビなどでもよく見られるようになり、認知度が増しましたが、それがどういう意味なのかについては、県民によく理解されていません。

また、「みんなにやさしいまちづくり条例」の認知度については、「知っている」と回答した割合は2.3%、「ある程度は知っている」と回答した割合は10.1%と合計でも12.4%となっており、ほとんど知られていません。

- 県民にユニバーサルデザインの考え方がよく理解されていないため、車いす使用者用駐車スペースを健康な人が利用したり、視覚障がい者誘導ブロックの上に自転車や荷物を置くなど、「思いやり」のない行動が見受けられます。
- 事業者や行政などにも、ユニバーサルデザインにはどのような効果があるのかなど、その考え方が十分に理解されていないため、具体的な事業や施策などに反映されていないことがあります。

《推進方向》

○ 意識啓発の促進

「みんなにやさしいまちづくり」を推進する上で基本となるのは、様々な人の存在を理解し、「思いやりのところ」を持つことです。困っている人がいたら声をかける、手を差し伸べるなど「思いやりのところ」を持った行動が自然に出るような「心」の醸成、

いわゆる「心のバリアフリー」を促進していきます。

○ 学校教育等学ぶ機会の充実

小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校と連携を図り、子どもの頃からみんなにやさしいまちづくりについての理解を深め、「思いやりのこころ」をはぐくむように、教育を充実していきます。

また、地域や職場等においてもみんなにやさしいまちづくりについての理解を深める機会を設けるなど、生涯を通して学ぶ機会を充実していきます。

○ 人材・組織の育成

みんなにやさしいまちづくりの取り組みを進めるためには、地域や事業者等において、率先して取り組む人材の育成を進めていきます。

また、ユニバーサルデザインを推進するボランティア団体及びNPO法人等の活動基盤を強化するため、積極的に情報提供等の支援を行っていきます。

《取り組み例》

- ① ユニバーサルデザインに対する理解を深めるための講座、講演会やフォーラムの開催
- ② ユニバーサルデザインのパンフレットの作成配布や優れた取り組み事例などの紹介
- ③ ユニバーサルデザインの認知度調査
- ④ 県や市町村の広報誌によるユニバーサルデザインに対する理解を深めるための広報
- ⑤ 学校等において、総合学習の時間等を活用したユニバーサルデザインについての教育、障がい者の疑似体験などの体験学習や高齢者や障がい者との交流活動等の実施
- ⑥ 地域や職場におけるユニバーサルデザインに関する活動及び学習機会の提供その他の啓発活動の充実
- ⑦ 住宅のユニバーサルデザイン化に関する県民や建築士、施行業者等に対する意識啓発や研修機会の提供
- ⑧ 行政におけるユニバーサルデザインに関する職員研修の実施
- ⑨ ユニバーサルデザインに係るボランティア活動やNPO法人等の民間団体の活動への参加促進
- ⑩ UDアドバイザー、UDサポーター等のボランティアの育成
 - ※ UDアドバイザーとは、ユニバーサルデザインに対する知識が豊富であり適切なアドバイス等を行うことのできる者で、UDサポーターとは、ユニバーサルデザイングッズの購入やイベントへの参加等を積極的に行う者である。
- ⑪ ユニバーサルデザインの推進に功績のあった者に対する表彰 など

地域におけるユニバーサルデザインに関する活動

こんなことUD

ユニバーサルデザインについて考え、広め、実行することを目指して平成11年4月に発足した山形ユニヴァーサル・デザイン研究会では、講演会や話し合いの開催、地域づくりの提案やサポート、調査・研究、情報の収集や発信等を行っています。

※写真は、大石田町で行われた「バリアフリーを考えたまちづくり研修会」とまち歩きチェックの様子です。

